

シリーズ・近代アジアの都市と日本

近代台湾都市案内集成

▼監修・解説▲

栗原純

東京女子大学教授

鍾淑敏

中央研究院台湾史研究所副所長

近代日本人の「台湾イメージ」の探究と
日台関係史研究のための基礎的文献集。

全20巻

ゆまに
書房 YUMANI
SHOBU

監修にあたって

東京女子大学教授 栗原 純
中央研究院台湾史研究所副所長 鍾淑敏

台湾は、日清戦争により獲得された日本帝国最初の植民地である。日本はその後、対外戦争を繰り返し、関東州・樺太南部、朝鮮、南洋群島とその支配を拡大し、やがて「満洲国」の建国にいたる。台湾は帝国日本の原点となる海外領土であった。

統治初期、日本の支配は住民による激しい武力的抵抗を受け、また、ペストやマラリアなど感染症の犠牲者を多く出したため、「瘴癘の地」という印象を内地の者に与えたが、19世紀末の台湾は茶・砂糖・樟腦の国際的な産地であり、米を中国大陸に移出するなど、豊穡の地であり、その領有は大きな経済的意義を有していた。

また、台湾は、香港・上海を拠点とするイギリス、フィリピンに進出したアメリカ、東インドを領有するオランダなどの列強の勢力圏に近接しており、日本の「南進基地」という戦略的に重要な位置を占め、1930年代には工業化も本格的に推進されていく。

統治に当たり、台湾総督府は島内の政治的統制、産業の発展を意図してインフラ整備を重視し、縦貫鉄道の敷設に邁進する。本シリーズが総督府鉄道部の編集した『鉄道案内』から始まることには、統治の根幹として建設された鉄

道網に沿って各地が発展してきたという歴史的背景がある。

第二回配本では、鉄道沿線の観光案内にとどまらず、台湾の自然、産業、歴史、社会などについて記された内容のものを収録しており、現地在住の知識人や内地からの旅行者により描かれた台湾の近代的発展過程をうかがうことができる。台湾はほぼ真ん中を北回帰線が通ることから、「南国」・「常夏」と称されるが、富士山よりも高い山々の存在する台湾の気候、自然は多様であり、農産物も北部の茶、中部の米、南部の砂糖など、地域による特産品が知られている。

さらに第三回配本は、代表的な都市の清代から現代までの歴史、発展をまとめた各地方史を中心とする。台北は19世紀後半、茶の集散地として発展し、その後、政治的中心地となり、基隆は港湾都市、台南は歴史遺産の残る古都などの特徴がみられ、台湾社会は複雑で多面的な顔を持つことが理解できると思われる。

台湾は日本領土であり、しかも「外地」であった。本シリーズの復刻が内地における「外地」台湾の印象、日本帝国内における台湾の持つ歴史的 성격についてより深く理解する機会となることを願ってやまない。

収録文献

- ◆第1巻◆台湾鉄道名所案内 1908年
台湾総督府鉄道部編(1908年・江里口商会)
- ◆第2巻◆台湾鉄道旅行案内 1916年
台湾総督府交通局鉄道部編刊(1916年)
- ◆第3巻◆台湾鉄道旅行案内 1923年
台湾総督府交通局鉄道部編刊(1923年)
- ◆第4巻◆台湾鉄道旅行案内 1930年
台湾総督府交通局鉄道部編刊(1930年)
- ◆第5巻◆台湾鉄道旅行案内 1940年
日本旅行協会台湾支部編刊(1940年)
- ◆第6巻◆台湾鉄道旅行案内 1942年
台湾総督府交通局鉄道部編(1942年・東亜旅行社台湾支部)

『台湾鉄道旅行案内』とは、台湾総督府交通局鉄道部(後に日本旅行協会台湾支部等)が数年おきに編集し刊行した鉄道を中心とするガイドブック。大正5(1916)年に刊行され、その後、昭和17(1942)年まで12版が刊行された。版を追って記述が詳細となる。また、一連のガイドブックによって、日本統治後半期の鉄道網の拡大とそれに伴う沿線区域の発展が見てとれる。巻末の広告も興味深い。旅行案内にとどまらず、台湾社会の変容を具体的に読み取れる最良の台湾案内である。今回、初版と最終版、そしてその間の画期となる三つの版を収める。さらに『台湾鉄道旅行案内』の前身に当たる台湾総督府鉄道部が最初に発行したガイドブックである、『台湾鉄道名所案内』も収録した。



縦貫線急行列車

◆第7巻◆

台湾案内 入江英(1897年・東陽堂)

領有直後は実態不明であった台湾について、陸軍の囑託を受けた著者が、沿岸部から高山まで「蕃人の言を誦」しながら調査した報告書。地理、交通、産業、先住民等についての簡便な説明が主であるが、巻末には先住民の言語一覧を附し、実地へ赴く者への便を図っている。

台湾南支事情 藤崎精四郎(1918年・台湾案内社)

日本の国策にとって重要な台湾及びその貿易相手である華南地域の現状を紹介するために編纂された、と本書中で述べる。福州、アモイ、汕頭、香港などの華南地域の経済状況を記し、台湾に関しては、銀行、製糖、製腦、新聞等の153社の所在地や経営者、経営状況などを簡便に説明する。

◆第8巻◆台湾名勝旧蹟誌

杉山靖憲(1916年・台湾総督府)

名勝旧蹟の記録が散在していることに鑑み、総督府の命によって編纂される。城跡、記念碑、公園、滝等の330余りの名勝について地理、歴史的経緯を豊富な写真とともに紹介。著者は、日本、中国、オランダ等の文献を綿密に検討した上に、実地調査も行っているため、信憑性の高い資料となっている。

◆第9巻◆台湾の風景 田村剛(1928年・雄山閣)

著者は、「日本の国立公園の父」と呼ばれた林学博士。本書は、台湾総督府から公園調査を依頼されて訪れた台湾の紀行文。その帰途に不慮の事故に遭い、療養中の苦痛から逃れるために執筆したと田村は序文で述べる。しかし、専門家の鋭い視点が随所に光り、台湾公園史、観光史研究にとどまらない台湾都市研究においても欠かせない文献である。



台北駅

◆第10巻◆常夏之台湾

加藤駿(1928年・常夏之台湾社)

統治から30年余りが経過したにも関わらず、日本本土で台湾が十分に理解されていないため、旅行者の羅針盤とする目的で書かれた。台湾の温暖な気候や産業の発展、農業の豊作等を伝える他、旅行上の注意、航路や鉄道の利用法、旅費の概算から現地花柳界までを、写真付きで紹介する。台湾への渡航が一般化した時期を示す資料である。

◆第11巻◆

台湾の旅 台湾教育会(1927年)

冒頭の例言で、昭和2年11月、台北で開かれた全国師範学校長会議の台湾視察の参考資料として編まれたことが記される。視察目的に即して綴られるが、一般にも相当役立つものを目指したとも書かれ、主要都市の地図も附す。役立つ工夫が凝らされた旅行ガイド。

台湾旅行の栞

宮前嘉久蔵(1934年・東西旅行案内所)

「本書は台湾が如何に天恵に富み、久住の地として好個であるかと云ふ事を内地の人々に知らす事と台湾旅行者の便に供する目的で発刊した」と、はしがきで述べる。気候など基本的な説明から、「台湾一周日程」やそのモデルケースなどを明示する。昭和初期にはすでに日本本土からの台湾への観光コースが確立していたことが分かる。

趣味の台湾

宮川次郎(1941年・日本旅行協会台湾支部)

著者は台湾では著名なジャーナリストで趣味人としても知られる。序で、「本書は趣味より観たる台湾で、未だ曾て試みられなかった新形式の台湾紹介」であり、「趣味的角度より観る時は、如何に親しむ可く、如何に愛す可き郷土であるか」という。台湾の玩具、料理、文化等についての珍しいエッセイ。

◆第12巻◆南部台湾誌

台南州共栄会編刊(1934年)

本書は明治期の官撰地方誌に、新たに増補を加えたものである。清朝時代の文献に依拠して、各地域の沿革、行政、習慣等、他の公式記録には見られない事蹟を伝えている。「南部」と題しているものの記述は全島に及んでおり、領有初期の台湾を知るのに恰好の資料である。

◆第13巻◆東台湾 橋本白水(1922年・南国出版協会)

橋本白水は新聞記者として台湾東部について多くの著作を遺した人物である。特に本書は代表的なものであり、前半では鉄道部長や花蓮港庁長等、各界の有力者へのインタビューを通じて発展の方策を探り、後半では大正期台湾東部の現状を紹介する。

◆第14巻◆

官営移民事業報告書

台湾総督府編刊(1919年)

台湾総督府は官営事業として1909年から18年にかけて台湾東部への農業移民を奨励していた。本書はその終了にあたって編纂された報告書であり、多数の写真や統計資料とともに、土地の区画整理、移民の募集、農産の増収等、事業の成果を強調する一方で、先住民との軋轢や風水害等による移民事業継続の難しさをも暗示している。

◆第15巻◆

台湾に於ける母国人農業植民

東部台湾開発研究資料 第3輯 赤木猛市(1929年・台湾総督府)

総督府殖産局農務課の職員赤木猛市が編纂した資料を参考用として出版したもの。官営、私営、拓殖会社等の各種移民事業の概要、及びその詳細な財務数値や事業関係者の氏名、関係法規類等の情報を含み、20年を迎えた移民事業を回顧する際に、必須の資料となっている。

◆第16巻◆

台湾官営移住案内

台湾総督府殖産局編(1913年・台湾総督府殖産局)

大正初期に移住希望者を募集するために作成されたものであり、移住者への注意書きに加えて台湾を理想的な土地に見せようとする内容が興味深い。

三移民村 花蓮港庁編刊(1928年)

花蓮港庁にあった吉野村、豊田村、林田村について昭和初期の開墾や生産の状況を平易な文章で伝えるほか、「移民の感想」と題して入植者の手記を掲載しており、生の声として貴重である。

官営移民村 吉野村概況

吉野村編刊(1939年)

経営が安定してきた昭和十年代の報告書である。配分された土地の開墾がほぼ完了した時期であり、土地利用の状況や生産高の統計を含み、農業移民の最終的な結果を示す。

大和村建設志

郡茂徳編(1942年・保証責任大和村建築信用購買利用組合)

大和村とは、台中市郊外で1938年から建設が始まった日本人向けの高級住宅地であり、出版時には90戸が完成していた。本書は建設の主体となった組合の年表、財務、規約、建築様式等の資料や住民の感想等を採録しており、銀行支店長や会社役員など、台湾における有力者であった日本人の生活の一端を窺わせる貴重な記録である。

本島人祭典の盛況



◆第17巻◆台北市史 台湾通信社編刊(1931年)

台北市政十周年を記念して台湾通信社が編纂した資料。台湾領有から1930年代始めまでの歴史を綴っているが、内海忠司市尹による序文に表れているように、特に衛生や水道、教育、治安等、民生の改善を強調する内容になっている。巻末に詳細な年表と統計を附す。

◆第18巻◆

新興台湾の工場を視る 高雄篇

稲岡暹(1936年・高雄新報社)

1935年から36年にかけて『高雄新報』に連載された高雄の工場の見学記をまとめたもの。セメント、製鉄、炭酸、肥料、アルコ

ール等の重工業を中心に各工場の豊富な写真と、現場担当者へのインタビューを多く含み、産業史資料としての価値は高い。なお、「高雄編」以外の続刊は確認できない。

◆第19巻◆

澎湖を古今に渉りて

杉山靖憲(1925年・澎湖三十周年招魂大祭奉賛会)

澎湖諸島の領有30年を記念して作成された。前半では漢文史料に基づきながら、倭寇、鄭成功、日清戦争等まつわる澎湖の事績を概述し、後半では1920年代の社会状況を紹介、巻末に媽祖廟やクールバー中將の墓等、史蹟の解説を附す。下関条約で台湾本島とともに割譲された澎湖諸島の歴史を知る上で有用である。

美濃庄要覧 美濃庄役場編刊(1938年)

現在、高雄市の一部となっている美濃庄(竹頭角)の1930年代の状況をまとめた公式資料。同類の資料に見られるように、行政や経済、教育についてのデータを掲載しているが、産業の中心は稲作と養豚であり、当時は一山村に過ぎなかったことを示す。観光地として有名な同地の過去の姿を知る上で貴重な資料である。

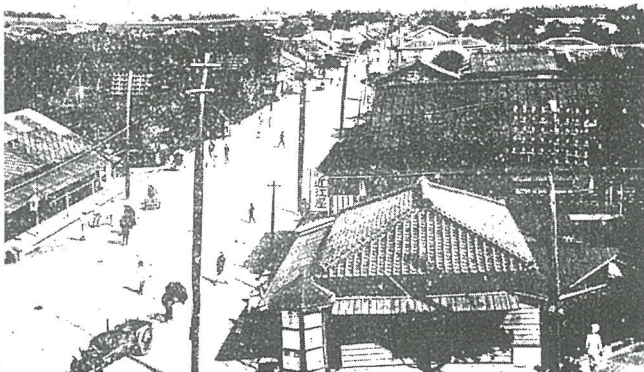
◆第20巻◆

史蹟名勝天然紀念物調査資料

内務局編刊(1931年)

台湾において注目すべき史蹟等について、各州庁の調査記録に基づき編纂したもの。山岳や石碑・寺廟の所在地、所有者、由来等、300件余りについて簡便な解説を加えている。日本領有後に作られた神社や軍人の記念碑等も多く、総督府の歴史観を探る上で手がかりとなる。

花蓮港街黒金通り



シリーズ・近代アジアの都市と日本

近代中国都市案内集成

上海編

全12巻

[監修・解説] 孫安石

●揃定価: 本体277,000円+税 ISBN978-4-8433-3534-5 C3325

近代中国都市案内集成

北京・天津編

全13巻

[監修・解説] 吉澤誠一郎

●揃定価: 本体283,000円+税 ISBN978-4-8433-3291-3 C3325

香港都市案内集成 全13巻

●第1回・全6巻 揃定価: 本体 97,000円+税

●第2回・全7巻 揃定価: 本体100,000円+税

[監修・解説] 濱下武志/李培徳

全13巻 ●揃定価: 本体197,000円+税 ISBN978-4-8433-4392-0 C3325

臺灣鐵路線路圖

台北
(本シリーズ第17巻収録)

大和村
(本シリーズ第16巻収録)

澎湖諸島
(本シリーズ第19巻収録)

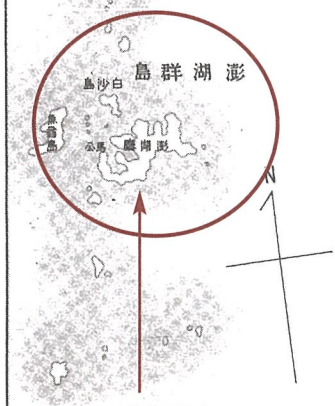
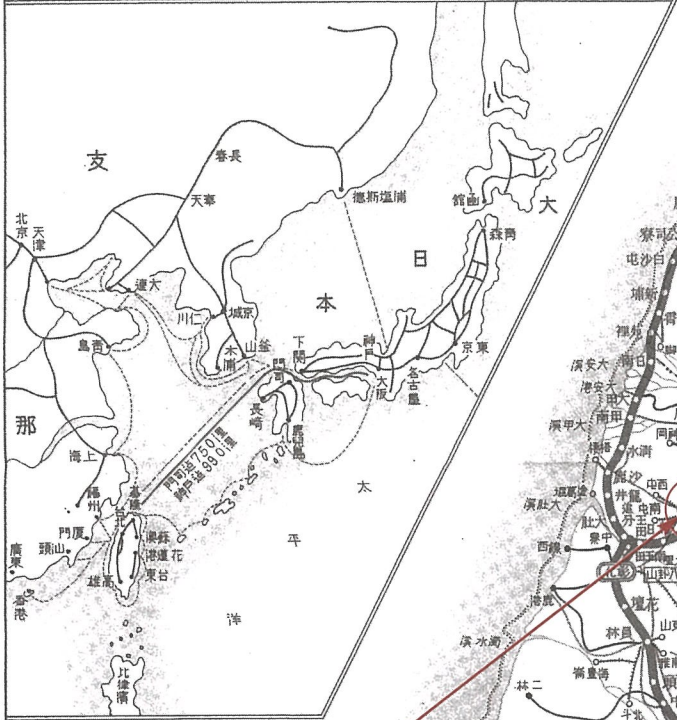
高雄
(本シリーズ第18巻収録)

美濃庄
(本シリーズ第19巻収録)

花蓮港
(本シリーズ第13巻収録)

吉野村
(本シリーズ第15・第16巻収録)

豊田村・林田村
(本シリーズ第15・第16巻収録)



例		凡	
□	山	○	港
△	島	○	主
○	州	○	州
○	目	○	同
○	私	○	航
○	官	○	官
○	文	○	文
○	通	○	通
○	局	○	局
○	設	○	設
○	他	○	他
○	線	○	線
○	路	○	路

*台湾鉄道線路図(本シリーズ第4巻所収「台湾鉄道旅行案内1930年」より転載・加)

近代台湾都市案内集成 全20巻

【監修・解説】栗原純／鍾淑敏 ●揃定価：本体330,000円＋税 ISBN978-4-8433-4229-9 C3325 A5判／上製／クロス装／函入

●第1回配本・全6巻 『台湾鉄道旅行案内』シリーズ

●揃定価：本体82,000円＋税 ISBN978-4-8433-4230-5 C3325	既刊・2013年7月刊
◆第1巻◆台湾鉄道名所案内 1908年	定価：本体10,000円＋税 ISBN978-4-8433-4233-6 C3325
◆第2巻◆台湾鉄道旅行案内 1916年	定価：本体10,000円＋税 ISBN978-4-8433-4234-3 C3325
◆第3巻◆台湾鉄道旅行案内 1923年	定価：本体16,000円＋税 ISBN978-4-8433-4235-0 C3325
◆第4巻◆台湾鉄道旅行案内 1930年	定価：本体18,000円＋税 ISBN978-4-8433-4236-7 C3325
◆第5巻◆台湾鉄道旅行案内 1940年	定価：本体16,000円＋税 ISBN978-4-8433-4237-4 C3325
◆第6巻◆台湾鉄道旅行案内 1942年	定価：本体12,000円＋税 ISBN978-4-8433-4238-1 C3325

●第2回配本・全6巻 台湾全般の案内記

●揃定価：本体108,000円＋税 ISBN978-4-8433-4231-2 C3325	既刊・2014年2月刊
◆第7巻◆台湾案内／台湾南支事情	定価：本体15,000円＋税 ISBN978-4-8433-4239-8 C3325
◆第8巻◆台湾名勝旧蹟誌	定価：本体29,000円＋税 ISBN978-4-8433-4240-4 C3325
◆第9巻◆台湾の風景	定価：本体10,000円＋税 ISBN978-4-8433-4241-1 C3325
◆第10巻◆常夏の台湾	定価：本体11,000円＋税 ISBN978-4-8433-4242-8 C3325
◆第11巻◆台湾の旅／台湾旅行の葉／趣味の台湾	定価：本体18,000円＋税 ISBN978-4-8433-4243-5 C3325
◆第12巻◆南部台湾誌	定価：本体25,000円＋税 ISBN978-4-8433-4244-2 C3325

●第3回配本・全8巻 台湾各地域・都市の案内記

●揃定価：本体140,000円＋税 ISBN978-4-8433-4232-9 C3325	2015年5月刊行予定
◆第13巻◆東台湾	定価：本体18,000円＋税 ISBN978-4-8433-4764-5 C3325
◆第14巻◆台湾総督府官営移民事業報告書	定価：本体27,000円＋税 ISBN978-4-8433-4765-2 C3325
◆第15巻◆台湾に於ける母国人農業植民 東部台湾開発研究資料 第3輯	定価：本体14,000円＋税 ISBN978-4-8433-4766-9 C3325
◆第16巻◆台湾官営移住案内／三移民村／ 吉野村概況 官営移民村／大和村建設志	定価：本体15,000円＋税 ISBN978-4-8433-4767-6 C3325
◆第17巻◆台北市史	定価：本体29,000円＋税 ISBN978-4-8433-4768-3 C3325
◆第18巻◆新興台湾の工場を視る 高雄編	定価：本体10,000円＋税 ISBN978-4-8433-4769-0 C3325
◆第19巻◆澎湖を古今に渉りて／美濃庄要覧	定価：本体14,000円＋税 ISBN978-4-8433-4770-6 C3325
◆第20巻◆史蹟名勝天然紀念物調査資料	定価：本体13,000円＋税 ISBN978-4-8433-4771-3 C3325

特色と編纂方針

- 本シリーズは3回の配本に分け、旅行、地理、民俗等の視点から台湾を紹介した資料を収録。第1回では、鉄道網の拡大と沿線地域の発展を記録したガイドブック、『台湾鉄道旅行案内』の初回版と最終版ほか6冊を複製。
- 第2回では、日本人の台湾イメージの変遷を探る手掛かりとして、明治から昭和にかけて台湾へ渡航した日本人の手記や、旅行案内等を収録。また、総督府が参考資料として編纂した地誌類もあわせて収録。
- 第3回では、これまで注目される機会の少なかった花蓮、高雄等の地方都市を中心に、定住した日本人が各地域での発展を図った足跡を示す資料を収録。また、台湾への農業移民に関して、総督府の発行した移住案内や事業報告書等の資料を最大限収集し、移民事業の全体像がつかめるよう配慮した。

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493 http://www.yumani.co.jp/

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

ご注文書

近代台湾都市案内集成 全20巻

第1回・全6巻 第2回・全6巻 第3回・全8巻

取扱店

お名前
ご住所

TEL ()

15.04/01.7000H